

愛のある知性を。宮城学院女子大学



MG-LAC

2023年度 活動報告



MG-LAC

(宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター)

地域と連携し、 学生の自主活動をサポートします。

宮城学院女子大学は、地域社会連携し、学生の自主的・実践的な学び、社会貢献の場を提供しています。LAC(リエゾン・アクション・センター)の「Liaison」(リエゾン、連携)という言葉には、学生が教員と、大学と地域がつながり、協働して活動を創っていくという願いが込められています。学生は大学での学びをいかし、自主企画活動やボランティア活動など、多彩な活動を展開しています。宮城学院女子大学の学生による自主活動への取り組みは、「大学基準協会」から最高ランクS判定をいただいています。

MG-LAC(リエゾン・アクション・センター)

MG-LACは、大学での学びを活かした学生のプロジェクト型自主活動を支援します。

企業・教育機関

学生

MG-LAC
リエゾン・アクション・センター

自治体・NPO

教職員

プロジェクト型自主活動…学生たちが授業やサークル以外で「やりたいこと」に主体的に取り組む活動です。社会人としての基礎力も養います。

学生が自主的に企画・運営するプロジェクト

MGSS

スポーツを支える立場としてイベントの開催や健康増進に関わるサポートを行っています。

教育学科
健康教育専攻 4年

佐藤千咲

今年度は主に「ちびっこかけっこコース」と題した、子ども達が多様な運動動作を経験できるようなスポーツ企画を中心に活動しました。各活動によって対象者や活動範囲が異なる中、企画に参加したメンバーによる創意工夫や先生方のご協力により、非常に充実した活動を実施することができました。とりわけ、子ども達の「できた」「楽しかった」といった経験を、後のスポーツ活動への原動力とするために、一人一人の性格や課題を理解しながら活動を進められた点が今年度の活動成果であると思います。また、女子サッカーWEリーグで活躍する「マイナビ仙台レディース」とのコラボ企画では、実際にスタジアム内で特設イベントを実施するなど非常に貴重な経験をすることができました。運動やスポーツを「する」だけでなく、イベントを通して選手や試合を盛り上げ、「支える」という視点で関わることができたと思います。



Get Jiggy!!

地域で料理教室を開催することで世代を超えたコミュニティ作りを行います。

現代ビジネス学科 4年 浅野夏希

1年という短い活動期間だったものの、ワークショップの開催、学外イベントへの出演、SNSやポスター作成など様々なことに挑戦することができました。メンバー確保という目標を掲げるのであれば、学内掲示で効果が得られなければ先生にお願いをして授業終了後に直接宣伝をする、またお昼休みに学内生が集う大講堂前でダンスを実演し宣伝するなど、注目を得る工夫は色々だったと思います。チームで活動するにあたっては、全員で課題や目標達成に向けた方法について共有する必要性がありました。それぞれのスケジュールがあっても時間を設けて全体に現状を報告する場を設けることも必要だったと思います。メンバー不足により次年度の活動につなげることはできませんでしたが、活動を通して多くの課題を見つけることができました。



てとてプロジェクト

地域で料理教室を開催することで
世代を超えたコミュニティ作りを行います。

現代ビジネス学科 4年 門間 由芽奈

2022年夏に発足し、現代ビジネス学部と食品栄養学部の学生計5人で各々の学部での学びを活かしながら楽しく活動しています。今年度は、児童養護施設での料理教室開催に向けて、メニュー考案、企画立案、先方との話し合いなどを行いました。そして当日には、クレープづくりを行いました。クレープ生地を焼くのは少し難易度が高いように思いましたが、すんなりとクリアする料理上手な子ども達。終始笑顔や会話が絶えない、大変賑やかな料理教室となりました。活動で学んだことは、相手の目線になって考えることの大切さです。私達は楽しいと思うが果たして子ども達はどうか?退屈する作業はないだろうか?など、何度も子供たちの目線になって企画を検討・修正を繰り返しました。当日は楽しかった!!の声を沢山聞くことが出来、やりがいに繋がりました。



蒲公英倶楽部

学校資料の調査や保全作業を実施し
展示会を開催しています。

人間文化学科 3年 浅野 夏希

学校資料の調査、保全のために大崎市立古川第一小学校に赴き、作業を行いました。主な作業としては、資料の写真撮影を行い全ての資料をデータ化すること、資料の目録作成、保管場所の整理です。また、学校日誌が歴史的資料として貴重な資料であることを様々な人に伝えるために展示会を企画しました。2024年2月下旬から3月にかけて、気仙沼市立小泉小学校と気仙沼市立中井小学校の閉校記念展を実施しました。2校の学校日誌を読み、学校に関する記事や、その地域の歴史に関する記事、面白い記事を抜き出し展示物としました。また、学校の変容が分かる写真なども展示しました。活動の中で、今まで気づくことのできなかった事実を知ることや、その地域の歴史を知ることができました。一年の活動を通して、学校日誌が歴史的資料として貴重なものだと改めて感じる事ができた活動となりました。



桜ヶ丘古文書プロジェクト

古文書を中心とした地域文化財の
保全活動や勉強会を行っています。

人間文化学科 4年 原澤 祐き乃

今年度の活動は、週1回ほどのペースで岩松旅館からお借りした資料のクリーニング、撮影といった保全活動や、その写真を利用した解説会を行いました。また学外の活動としては、前年度に古文書の保全活動を行っていた登米市の津島神社で、古文書展示に関わる作業を5月に行いました。さらに1月にはそのご縁で、登米市で行われた「さめまの歴史・文化講演会」に参加しました。また8月には仙台市内での古民家で古文書のレスキュー、9月にはNPO法人宮城歴史資料保全ネットワークで、古文書のクリーニング作業を行いました。いずれも学内ではできない経験をする事ができました。一般的に古文書の実物に触れられる機会はほとんどないため、古文書のクリーニングや撮影、レスキューといった作業は貴重な経験となりました。また、古文書を通じて様々な方とお話する機会ができたことも、活動していて良かったと思えました。



 Instagram sakuragaoka_komonjyo

小さな図書館プロジェクト

自由に貸出・寄付ができる本棚を学内外に設置し、
気軽に誰でも本に触れることができる場を提供しています。

日本文学科 3年 日下部 千尋

このプロジェクトでは、学内に設置した本棚の書架整理や季節に合わせた装飾、本の売上金の寄付など、主にリトルフリーライブラリーの運営を行っています。2023年度は、新たに二つの目標を掲げて活動を進めました。まず、利用者の層を広げるべく、大学近くの商業施設BRANCH仙台のまちスポさんに本棚を設置させていただき、学外での活動を開始し「年代を問わず家族みんなが楽しめる本棚」を目指して選書・装飾を行いました。今後は、泉館山高校の図書委員会とアイデアを出し合い、共同でイベントを企画する予定です。また、SNSを活用してプロジェクトの布教を行いました。投稿内容を工夫し定期的にSNSを更新した結果、新たに三人のメンバーを迎えることができました。今年度は学外での活動も開始したことにより、メンバー同士で話し合う機会も増え、活発に活動できたことをとても嬉しく思います。



 Instagram lfl_mgu  X (旧Twitter) LFL_mgu

にじいろプロジェクト

LGBT等セクシュアルマイノリティの
啓発活動を通して性の多様性について考えます。

教育学科
健康教育専攻 4年 荒川 愛那

対面での活動が可能になり、より充実した1年になりました。多くの経験を経て、各メンバーの中でも「多様性の在り方」について自身の情報をアップデートできたのではないかと感じます。学生課に設置した本棚には、メンバーがおすすめるLGBTQについての書籍と紹介文を掲示しました。また小野寺真さんの講演会は、学生だけではなく地域の方々にもお越しいただき、多くの方に講話を聞いていただくことができました。にじいろパレードはメンバーの1年生が参加し、今後のにじいろプロジェクトや宮城学院女子大学の在り方について考えるきっかけとなりました。このプロジェクトは健康教育専攻のメンバーが多く、将来子どもたちの教育に携わる立場になる人が多いと思います。この活動は子どもたちの多様性の在り方を考えるだけでなく、活動を通して他者を思いやる心も育てることができる素敵なプロジェクトだと感じています。

Instagram niji_niji_mgu



Sp^ot A You

スポーツ栄養を学び、学外スポーツチームで
継続的栄養サポートを実践しています。

食品栄養学科 3年 柴野 奏香

今年の活動は東北学院大学硬式野球部、teami(女子バレーボールチーム)、名取女子バスケットボールチームなどへの栄養サポートを行いました。実際に対面で選手へ栄養指導を行うことができたため、選手にとっても私たちにとっても充実した活動となったのではないかと思います。栄養指導の方法については授業で学習しますが、実際に外部の方に向けて指導をする機会がなく、友達同士で指導練習を行うため、質問の内容が想定できたり、間違った言葉遣いや専門的なワードを使っても支障がありません。しかし、選手への指導となると、言葉遣い一つ一つに注意をしたり、基本的な知識をわかりやすく、そして興味を持ってもらえるように楽しく指導を行うことが重要であるということを実感しました。そのためSAYの活動を通して新たな発見があったり、自身の課題をはっきりとさせることができ、レベルアップできるきっかけとなりました。

Instagram tgu_a_you



Heartful Sweets

子どもと一緒に菓子作りイベントを実施することで
ほっとする時間を提供しています。

食品栄養学科 3年 高橋 李緒

今年度はマクドナルドハウス・森の子ども園・小百合園にてお菓子作りの活動を行いました。マクドナルドハウスでは、月に1度メンバーが手作りのお菓子を提供し、森の子ども園と小百合園では子どもたちと一緒に菓子作りをしました。子供たちが安全に楽しく参加できるように、試作や準備も入念に行いました。ラッピングや見た目も華やかにし、食べたいと思ってもらえる工夫をしました。アンケートには「手作りのお菓子を食べることがなかなかなかったので嬉しかった」「可愛いケーキに癒された」という意見があり、実際にお菓子作りを行った子ども達も「美味しかった」「また次もやりたい」などの意見があり、この活動によりたくさんの方々に楽しい時間・ほっとする時間を提供出来たと感じました。参加者の声が、メンバーのやりがいに繋がりました。来年度からの活動も、引き続き子どもたちを楽しんでもらえるような工夫ができるよう頑張っていきたいです。

Instagram heartful_sweets



楽食プロジェクト

学生食堂のオリジナルメニューを考案し
フェアを定期的に開催しています。

食品栄養学科 3年 佐藤 純乃

今年度の楽食プロジェクトでは、大学食堂にてチーズフェア・中華フェア・りんごフェア・クリスマスフェアを開催しました。フェアに伴い、レシピの考案、試作・試食会、前日の調理を行いました。毎年開催しているりんごフェアでは、青森りんごの会様よりご提供いただいた赤と黄色のりんごを使用し、数種類のスイーツを考案しました。今年度のりんごフェアではりんごのエッグタルト、カラメルりんごのチーズケーキ、薔薇りんごのマフィン、りんごのバスクチーズケーキを提供しました。たくさんの方に喜んでいただき、りんごフェアを盛り上げることができました。そして、今年度は食品栄養学科だけでなく、英文学科や現代ビジネス学科の学生も所属しているため他学科との交流ができました。また、フェア以外にも入試説明会で「はちみつレアチーズケーキ」を考案し、提供しました。

Instagram gakushokuproject

X(旧Twitter) mg_gakushoku_p



国際支援活動Triangle

学生にも身近に取り組める国際支援活動や勉強会を行っています。

現代ビジネス学科 3年 細矢 ひかり

今年度の活動では、Triangleの3つのグループそれぞれの知名度向上と、メンバーがモチベーション高く活動に取り組むという目標を設定しました。その為には、SNSを活用して活動を発信することや、ミーティングを開催して目的意識を共有できるようにしました。メンバーのモチベーション向上については、なかなかルールや役割、予定などの情報が伝わっていきなりがありました。グループラインで情報共有してもしっかり読み込まずに糸が伝わっていないかがあったので、読んで確認したら一人一人リアクションをするなどルール作りが必要だったと感じました。大学祭当日は、参加してくれるメンバーが多く協力的に行うことができました。身近なところから始めることができる国際支援活動だからこそ、一人一人が目的意識を持って活動していく必要があると感じました。

Instagram study42mgftf_mguplan_mgu



MGこどもボランティア

子どもの支援に関わるボランティアに定期的に参加しています。

心理行動科学科 3年 熊井 桃子

今年度は、プロジェクト名を変更し、以前から継続的に行ってきた大原小の児童への支援だけでなく、他サークルとの連携を試みたり、大原小以外のこどもボランティアに参加してみたりと、新しいことにたくさんチャレンジした1年でした。このプロジェクトが始まってから10年がたち、活動に参加する私たちの置かれている状況や、活動に対するニーズなどが変化しています。これらの変化に対して、柔軟に対応していくことが今後求められていると思います。プロジェクトを継続させるために、新たな課題に少しでも向き合えた1年だったと思います。メンバー全員が子供たちと関わる場をつくるという目標は、昨年度より達成できました。副代表の先輩方の協力もあり、自分たちができる範囲で子供たちが喜ぶことを企画できたと思います。また、大原小以外の子供ボランティアを継続的に行うことができたため目標達成に近づくことができました。

X(旧Twitter) oohara_MGU



MGPR

オープンキャンパスを中心に宮城学院女子大学のPR活動を行っています。

人間文化学科 3年 遠藤 ひかり

この活動を通して広報活動が多岐にわたることに気づきました。OCの学生企画は何度もミーティングを重ね、企画を実施する時に必要な人数や場所、高校生の誘導方法などを考えることで、OCという限られた時間で最大限の広報活動ができました。他にもラジオへの出演は、皆さんに届くまでにラジオの構成や台本を考え、事前にSNSで宣伝することが大切でした。このように、限られた時間、場所、方法の中で情報を届ける手段をつくりだすことが広報活動だと考えています。さらに、今年度はMGPRオリジナルのTシャツやOC中のシフトを作成を新たな活動として行いました。シフトを作成した結果、全員がスケジュールを把握できるようになり、率先して動く人が出てきました。自主活動団体として、主体性を育むことができたと感じています。来年度も「宮城学院女子大学らしさ」を届けていくことができれば幸いです。

Instagram mgu_mgrpr

X(旧Twitter) MgrprMgu



Food and Smile!

防災食をテーマに県内外での防災料理教室の開催や勉強会を行っています。

食品栄養学科 3年 柿崎 瑞稀

今年度は県内外での料理教室、防災レシピカレンダー販売等様々な活動を行いました。料理教室では災害時に電気やガスが使えない時の工夫を紹介し、ペットボトルの水を使用して手や皿を洗うためにどう節水するべきか目に見える形で体験していただきました。料理を作る際の参加者のリアクションから楽しんでいる様子や気付きながらいる様子が伝わりました。また震災の体験談を通して地震や津波の恐ろしさを伝承していくことの大切さを改めて感じる事ができました。「おいしかった!」「学んだことを周りの人にも教えてあげたい!」とご意見をいただいた時にやりがいを感じました。災害時に自分の身は自分で守る必要があるため、その方法を普及することが私たちの役目だと考えます。防災レシピカレンダー販売ではメンバー自身でレシピを作成し販売しました。何度も試作を行い多くの苦勞を乗り越え完成させることができ達成感を感じました。

Instagram mgu_fas



学内ボランティアクラブ

現在、宮城学院女子大学には3つの国際奉仕団体の学生組織があります。知見を広げ、社会で責任を果たし活躍する女性となるべく、活動しています。

■ ゴールデンZクラブ 英文学科 3年 森 葉月 Instagram mgu_goldenz X(旧Twitter) mgu_goldenz

ゴールデンZクラブは、仙台Iゾーンクラブの学生支部として幅広い活動を行っています。昨年は、イベント運営のボランティア活動や海外のフェアトレード商品の販売、地元仙台を拠点とする会社の取材等を通して社会に貢献できるよう努めてきました。私が印象に残っているのは、フェアトレード商品の販売です。みなさんはフィリピンのセブ市、と聞いたらどのようなイメージを持つでしょうか。リゾート地として有名ですが、は大きなゴミ山があったり、学校に通えない子どもたちがいたり、まだまだ発展途上なのです。私たちが販売した商品はフィリピンのそのゴミ山を利用して作られた商品で、環境、教育、労働など多くの問題解決につながります。この活動を通して視野が広がり、自分の将来と海外の問題の関係を考える良いきっかけになりました。



■ さくらレオクラブ 日本文学科 2年 佐竹 那月 Instagram mgu_sakura X(旧Twitter) sakura_leoclub

さくらレオクラブは、国際的な社会奉仕団体「ライオンズクラブ」の学生団体として、2017年8月に発足しました。今年度は、県から譲り受けた期限が近い食品や、親団体である青葉ライオンズクラブさんから頂いたお米などを学内配布しました。定期的な活動では、毎月児童館へボランティアに行き、子どもたちとの交流を深めました。また、桜ヶ丘小学校の夏祭りを出し物をしたり、植樹活動に参加したりと、繋がりを感じる活動を行うことができました。レオクラブは活動のジャンルを決めていないため、自分たちが本当にしたいことを思い切りできる団体です。行動力と発想力が試されることが多いですが、幅広い経験ができることが魅力だと感じています。今後も、レオクラブのみでなく、他団体とコンタクトをとりながら様々な活動をしていきたいと思っています。



■ サークルK 日本文学科 3年 森元 沙羅

サークルKは、一般社団法人仙台キワニスがスポンサーとなり、子どもたちへの支援を目的として設立された団体です。主な活動は水の森児童館での活動や夏休みの学習支援、クリスマスマーケットでの企画です。今年度は子どもたちへの支援の幅を広げることを目標に活動しました。新たな試みとして、宮城県石巻市大原小学校の学芸会にボランティアとして参加させていただきました。全校生徒14名の小さな学校でしたが、子どもたちも先生方も温かく、私たちが元気をもらえました。子どもたちへの支援とは、双方が温かい気持ちになることではないかと考えさせられました。これからも子どもたちが笑顔になるような人間文化学科活動をしていきたいと思っています。



ボランティア活動報告

■ 人間文化学科 3年 吉田 愛花

SENDAI光のページェント実行委員会ユース部会で、開催に向けて募金活動や学生企画などイベント運営ボランティアを行いました。特に印象に残ったことは、社会人や学生の垣根を越えて、同じ奉仕の心を持った方々との関わりでした。誰かが喜んでくれることに価値を感じる優しい方が多く、とても貴重な出会いとなりました。学生の間は挑戦しやすい時期でもあるので、何事も踏み出す勇気が大事だと思います。失敗すること、自分の嫌な所に向き合うことも、全てが社会に出てからとても重要なものとなるはずですが、ボランティア活動では、老若男女と幅広いの方との関わりがあり、良い刺激になるので、ボランティア活動に興味がある方はぜひ積極的に参加してほしいと思います。



■ 生活文化デザイン学科 1年 三宅 伶奈

防災士として地域の防災事業への参加や火災予防訓練に努めています。生まれ育った地域に貢献できるやりがいのある活動がしたいと思ったことがきっかけで参加しました。後付けですが、母方の祖父は消防団員、父方の祖父は仙台市消防職員でした。実際の火災現場に赴く機会があり、初めての出場に何も出来ない自分に無力感を覚えたと同時に、焼けた建物を視て火災の怖さに触れました。こういった経験を通して、自分自身の防災意識の高まりを日々実感しています。活動に参加しようか悩んでいる方は、自分で選んだことであれば、大変なことであっても自己鍛錬として経験を活かすことが出来ると思います。支え合って生きていく社会の一員として、大学の4年間を有意義に送ってほしいと思います。



■ 健康教育専攻 1年 赤間 圭

秋田県五城目町と福島県いわき市での豪雨災害ボランティアに参加しました。私はボランティア活動を大学に入学する前からやりたいと思っていましたが、なかなか行動に移すことが出来ませんでした。ですが、やりたいことが出来ないのは後悔すると思い、思い切って参加しました。作業前に「絶対に無理をしないでください」と強く言われ、その理由として「無理をして活動し続けたら被災者の方が申し訳なく感じてしまう」と説明され、そこで私は被災者の方目線で考えられていなかったこと、被災者の方をこれ以上悲しませないためにまずは自分を大切にしなければいけないことに気がつくことができました。災害ボランティアは自分から積極的に動き、一緒に活動する人とつねに声掛けをしなければ作業が出来ません。この経験を通して、自分から動く積極性はどんなボランティアよりも身に着いたと感じています。



てとてプロジェクト

お菓子作りのボランティアを行っているHeartful Sweetsとの共同企画として児童養護施設に伺い子ども達と一緒にクレープ作りを行いました。上手く生地が焼けるか初めは少し心配でしたが、終始笑いの絶えない楽しい時間を過ごすことができました。



にじいろプロジェクト

11月に行われた「みやぎにじいろパレード」に参加し、LGBTQ当事者の方や障害を持つ方、国籍を超えた様々な方と関わることができました。展示ブースにも出展し、宮城学院の「性の多様性宣言」の紹介や、多様な人々との共生に向けた今後の学校教育に必要な支援について様々な意見をいただきました。



国際支援活動Triangle

学内に「おにぎりアクション」特設ブースを設置し、写真撮影の呼びかけを行いました。この取り組みは、おにぎりに関わる写真を1枚投稿する毎に途上国へ100円分の食料を届けられるというものです。当日はたくさんの方に参加していただき、身近に取り組める国際支援を呼びかける機会となりました。



Food and Smile

NHKラジオ「Nandaryミーティング～あの日、何を食べていましたか?～」に出演しました。当日は、ポリ袋を使った調理方法を実演し、災害時の限られた調理器具や食材でも美味しく栄養価の高い食事をとるポイントやコツを紹介しました。





地域貢献への取り組み



尾形ゼミ

日頃より社会福祉を学んでいる尾形ゼミの学生が中心となり、高齢者や障がいを持たれている方に安全なルートを示すことを目的として、泉中央駅付近のバリア(危険箇所)を調査し「泉中央みんなの安全マップ」を作成しました。このマップを広く配布することで、一般の方にも危険な場所の存在を認識してもらい支え合いの精神が育まれることも期待されます。



①実際に車いすに乗り安全なルートの確認や危険箇所を調査。



②調査で集めた情報を取捨選択しマップに落とし込みました。

QRコードを読み込むことで
目的地までのルートを
動画で確認することができます。



●泉中央
イズミティ21・
ウェルポート仙台



●泉中央
七北田公園



●泉中央
仙台東図書館・
ユアテックスタジアム仙台



青木ゼミ

「健康・体育・スポーツ」に関わるテーマを学ぶ青木ゼミの学生が中心となり、泉区の高齢者を含めた地域住民の方を対象とした体力・ロコモ(歩行などの移動機能が低下した状態のこと)測定会を行いました。
この取り組みは、自身の体力を早期に認知し正確な対策をすることで健康寿命の延伸を目的としています。



①3回の測定会で150名以上の方にお越しいただきました。



②地域の高齢者の方と関わることで教員を目指す学生の資質向上を目指します。

ボランティア・各プロジェクトについてのお問い合わせはMG-LACまでご連絡ください

宮城学院女子大学 リエゾン・アクション・センター (MG-LAC)

TEL:022-279-1340 FAX:022-279-5876 E-mail:lacvolu@mgu.ac.jp
〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1



この冊子は宮城学院女子大学福祉ボランティアサークルと己達会rise(就労支援継続B型)が作成しました。